

# 昭和34年常住人口調査結果概況

## 〔1〕 人口は年々減少し反対に世帯は漸増の一途をたどる

昭和34年10月1日現在で調査した常住人口調査における本県人口は1,469,713人となり前年に比べ4,025人の減少となった。又世帯は311,643で前年に比べると2,627世帯(0.84%)の増加である。これを郡市別に概観すると世帯は特に市部において著増し(1.32%増)郡部では0.13%の微増にとどまった。

これらは公営住宅の建設やその他自力建築等により住宅事情が好転し世帯の分離、独立の結果と思われる。又人口は過去4年間毎年続いて減少しているが本年は市部0.40%の増加郡部1.24%の減少となって県全体では0.27%の減少になった。

これは自然増を上廻る上級学校進学および就職のため県外への人口の流出があったのと、伊勢湾台風による死亡者(1,246人)等の諸原因によったものと思われる(No. 4 参照)

## 〔2〕 年令別人口について

### 〔1〕 老令人口が多く幼少年人口は減少の傾向にある

人口老年化現象の一般的傾向はますます顕著でそのあらわれとして幼少年人口が少くなり、老令人口は多くなりかつ生産年令人口も又増大している。

老年化指数は0.37で前年の0.35に比べ多少増加している。

0才から14才までの幼少年人口は427,001人15才から59才までの生産年令人口は886,795人60才以上の老令人口は155,177人で全人口に対する割合はそれぞれ29.05%、60.34%、10.61%となる。

幼少年人口の減少は昭和26年以降出生率が低下したことによる。

附表Bによって本県の出生率をみると人口1,000人につき26年23人27年21人28年以降は10人台となっていて殊に22年23年24年の30人台の出生数と比べると非常に少い。

これは周知のとおり受胎調節の普及と人工妊娠中絶の増加によるものである。

又この異状に大きな出生率を示した22年~24年に生れた少年(10才~12才)は現在中学校の1年および小学校高学年に在学するが、ここ2年位は逐次中学校の生徒が増加し、その収容力が問題となる。反対に小学校、幼稚園では年々児童数は少くなる。13才14才の人口が前後の年令人口に比べて少ないのは戦争末期および戦争終結直後(20年21年)の出生の激減による。

附表 A 年令3区分別人口

	昭和33年	全人口に 対する割合	昭和34年	全人口に 対する割合
幼少年人口(0才~14才)	439,177	29.80%	427,001	29.05%
生産年令人口(15才~59才)	881,898	59.84	886,795	60.34
老令人口(60才以上)	152,663	10.36	155,917	10.61
総人口	1,473,738	—	1,469,713	—
老年化指数	0.35	—	0.37	—

附表 B 三重県出生率

昭和	人口1,000人 に対し	現在の 年令	昭和	人口1,000人 に対し	現在の 年令	昭和	人口1,000人 に対し	現在の 年令
15年	27.51	19才	22年	32.25	12才	29年	18.50	5才
16	28.63	18	23	32.79	11	30	17.33	4
17	27.67	17	24	29.97	10	31	17.50	3
18	28.74	16	25	25.86	9	32	16.20	2
19	.....	15	26	22.84	8	33	16.63	1
20	19.65	14	27	20.94	7	34	16.99	0
21	22.85	13	28	19.77	6			

〔2〕 生産年齢人口は毎年増加しつつある

生産年齢人口は死亡率の低下と共に毎年殖えているが本年も前年より4,897人の増加である。

この層においては戦争の傷あとがはっきりとのこり、35才から44才までの男子はその前後の年齢層に比べ著しい減少で特に35才から39才の階層では女は100人に対し男72人で社会の中堅層に一つの断層があることを示す。生産年齢人口1人に対する幼少年、老令者の割合すなわち従属人口指数（扶養負担係数）は0.66で前年の0.67よりわずかに低下している。

老令人口は戦後の死亡率の低下によって毎年増加しているが、本年も前年に比べ3,254人の増加となる。

老令人口の全人口に占める割合は10.6%で前年の10.4%に比べ0.2%の増加である。

附表 C 従属人口指数

	総数	幼少年指数	老年指数
昭和33年	0.67	0.50	0.17
34年	0.66	0.48	0.18

附表 D 年齢3区分男女別人口

	男	女	女100人に対し男
幼少年人口	217,399	209,602	104人
生産年齢人口	419,476	467,319	90人
老令人口	71,733	84,184	85人

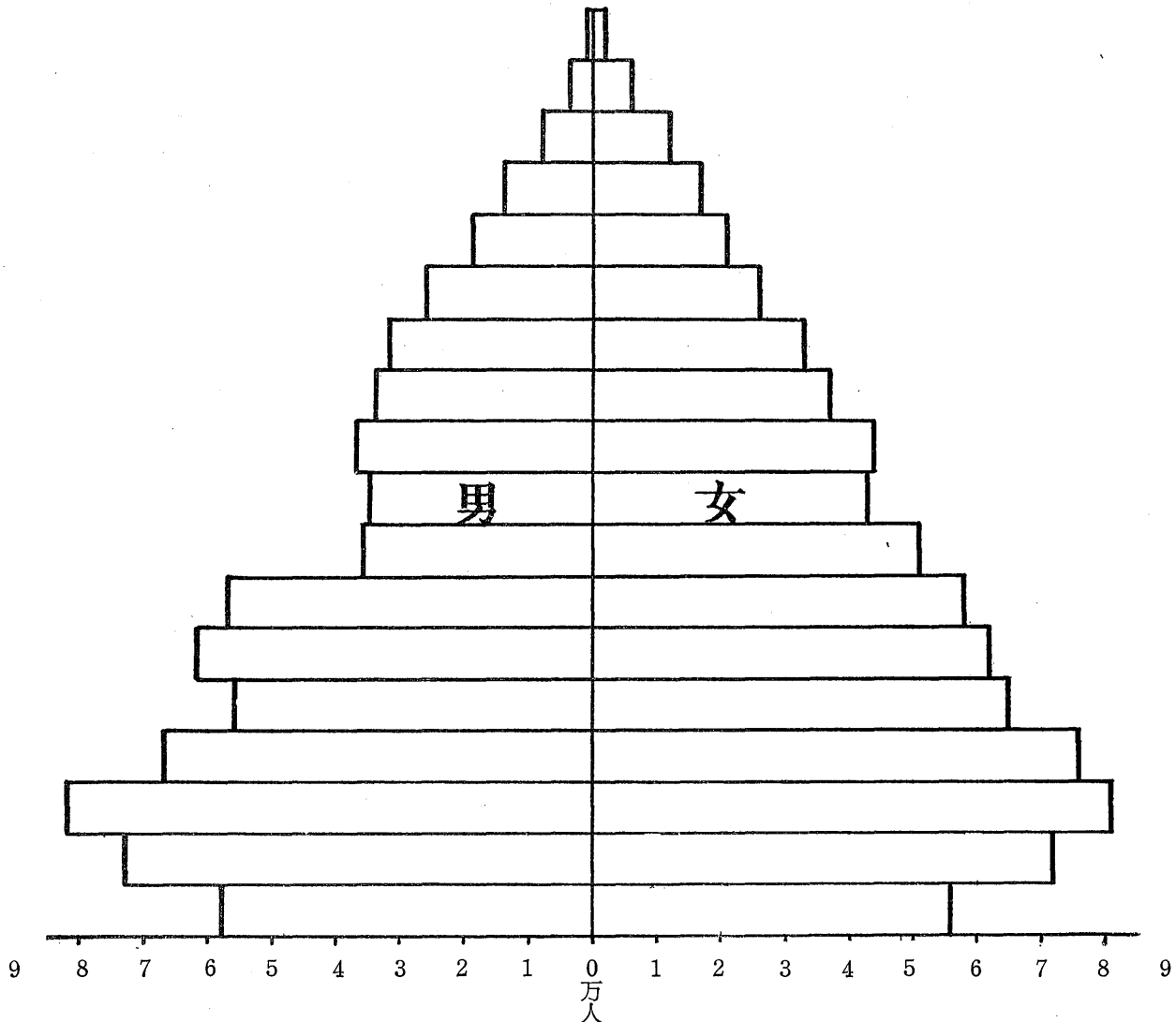
〔3〕 男女別人口については社会的現象として女子の方が多い

男女別人口は男708,608人、女子761,105人で女子の方が52,497人多く、人口の性比は93.1すなわち女100人に対し男93人となっている。

年齢層別（年齢3区分別）に見ると附表Dのように幼少年人口においては男が多く生産年齢人口においては女子の方が多い。これは戦争の傷跡等による35才～49才の年齢層男子の少いことと、近年における男子青年層の就学並びに就職のための県外流出によるもので、中進県としての社会的な現象といえよう。

年齢5才階級別人口ピラミッド図を画けば、図の如くつば型（衰退型）になる。

昭和34年三重県人口ピラミッド図



(参考)

	自 然 増		社 会 減	
	出 生	死 亡	転 入	転 出
昭和33年10月	2,131	999	3,026	2,810
〃 11月	2,133	926	1,504	2,260
〃 12月	2,154	1,090	1,353	1,999
34年 1月	2,777	1,337	1,590	2,219
〃 2月	2,273	997	1,739	2,349
〃 3月	2,224	1,196	2,516	5,129
〃 4月	2,188	1,050	3,305	6,851
〃 5月	1,872	939	2,669	3,957
〃 6月	1,779	834	1,737	4,067
〃 7月	1,851	895	1,806	2,116
〃 8月	2,030	958	1,889	2,566
〃 9月	1,956	1,315	1,838	2,325
総 計	25,368	12,535	24,972	38,648
差 引 増 減	+12,833		-13,676	

- 843

註 死亡において台風時のものは町村事務の混乱のため、10月 1,291 11月 1,377  
12月 1,281 と多少時期がずれる。